

2017 年度

国 語
(3期)

(答はすべて解答用紙に記入すること)

(時 間 45分)

番 号		氏 名	
--------	--	--------	--

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

時計の精度が高まるにつれ、より細かく時を分けるようになり、「1秒」という単位の表示をする時計の登場とともに、人々の間にも「1秒」^(注1)という概念^{がいねん}が定着^{じやうしやく}していきました。

最初に「秒」という A した時間を求めたのは、私は、天文学者ではないかと思っています。天文学者、(1) 王様付きの暦^{こよみ}をつくる役職の人たちは、一定の時間に星が何度動いたかということが気になるでしょう。天文学者とは「天にある時計を計る人」ですから、天にある非常に正しく動く時計(太陽や月)と地上で作った時計を比較^{ひかく}し、つきあわせながら観測^{くわんそく}していたと想像^{さうぞう}できます。そのとき、地上にある時計が正しいものでないと話にならないわけです。

王は神の使いであるわけですから、暦をつくり、日食や月食を予言^{よげん}することは、国を治めるにあたって最も重要な仕事でした。そういったことが予言^{よげん}でき、人民に「心配無用である。落ち着きなさい」ということができなさいといけない。古代中国では、そのような予言^{よげん}を外した天文学者は死刑^{せいじつ}になるなど、大変な目に遭^あっています。そのことから、治世^{ちせい}において暦^{れき}がどれだけ重視^{じゅうし}されていたかがわかると思います。

もう一つ、宗教的・治世的な目的とは別に、16〜17世紀のヨーロッパにおいて時計が国家的な事業として大発展したきっかけがあります。これはデーヴィ・ソベル著の『経度^{けいど}への挑戦^{ちせん}——一秒^{いちびょう}にかけた四百年^{しよっぴやう}』という本に詳しく書かれています。

当時は大航海時代といわれ、ヨーロッパの船がどんどんアジアやアフリカ、アメリカなどに漕^こぎ出^でていき、象牙^{ぞうげ}や織物^{おりもの}、香料^{かうりしりやう}など、さまざまな珍^{めづ}しい品々^{しな}を持って帰りました。アジアやアフリカなどから持ち帰った品々は、莫^{ばく}大な富^{とみ}を生みました。

その背景^{はいけい}には、造船技術^{ぞうせんぎじゆつ}の向上^{じやうじやう}があります。つまり、よい船^{ふね}ができたことで、

B

先陣^{せんじん}を切ったのはポルトガルです。(2)、バスコ・ダ・ガマがインド航路^{とうりやうろく}を見つけてインドに到着^{とうちやく}しました。そしてインドと貿易^{ぼうえき}し、金銀財宝^{きんぎんざいほう}や胡椒^{こしや}などのスパイス、高価^{こうか}な品々^{しな}を積んで帰ってきた。そのポルトガル船一隻分の荷物の価値^{かち}は、当時のイギリスの国庫^{こくこ}の半分にも相当^{たうじやう}したそうで、ポルトガル^{ポルトガル}の船^{ふね}はしばしばイギリスの軍艦^{くわんかん}に襲^かわれました。イギリス軍は海賊^{かいぞく}行為^{けいゐ}をして、財宝^{ざいほう}を自国^{こく}に持って帰っていたのです。当時は海上の船の位置^{いち}を簡単に知る方法^{はうほう}がなかったため、船は安全^{あんぜん}のためにあまり陸地^{りくち}から離^{はな}れることができませんでした。そのため狭^{せま}い海

域に商船や捕鯨船がひしめき合うことになり、海賊にとっては好都合な状況だったといえます。

② いずれにしても、一度でも航海に成功すると、どんな貧乏人であっても、すぐに貴族になれた。それほど航海は、ハイリスク・ハイリターンなことでした。

ハイリターンはもちろん莫大な富や、それによって得られる地位のことですが、ハイリスクというのは、海賊に襲われる危険性だけではありません。当時、緯度の計測は太陽をもとに容易に割り出せても、経度の計測がとても難しく、自分たちが海上のどこにいるかわからなくなりやすかったのです。となると、船は目的地にいつ到着するかわからず、当然、無駄な遠回りも出てきます。航海が長引けば長引くほど、積んできた飲料や食糧が尽きて船員が餓死したり、ビタミンC不足による壊血病で死亡したりする確率は高まります。普通の航海でも、壊血病で船員の半分くらいは死んでいたといえます。船員はほとんど使い捨てのようなものでした。

海賊の襲撃や、航海の長期化を避けるためにも、海上で船の位置を簡単に知る方法が求められました。陸から離れて目的地まで最短距離で行こうとするとき、何にも手がかりがないところでも、船のいる位置＝緯度と経度を知る方法はないものでしょうか。

緯度については、太陽や北極星の高さを見ればわかります。(3) 経度については、地球自体が回転しているために手がかりがないのです。「経度を知る」ということは、当時は不可能なことの代名詞といわれ、経度の計測は17世紀の科学の最大のテーマとなっていました。

イギリス議会は1714年に「経度法」を發布し、海上での経度を計る実用的な方法を発明した人には、イギリス国王の身代金に相当する額の賞金を出すと言いました。ニュートン、ハレー（ハレー彗星のハレーです）に代表される一流の科学者たちはもちろん、職人や、その他の怪しい人々まで、さまざまな提案を行いました。

天文学者たちの提案は、星を観測して計算するという、ある意味でオースドックスなものでした。こう書くといかにも簡単そうですが、その方法には大きな欠点がありました。振り子が時を刻む時計では、揺れる船上ではそもそも精密に観測ができません。振り子がどこかにガツンガツンぶつかることもあるでしょうし、止まってしまいうこともあるでしょう。計算するにしても、そんな複雑な計算は手計算ではとても時間がかかりません。この方法は船の乗組員にとって、全く現実的ではありませんでした。

ほかにさまざまな説や案が出されました。たとえば、時間がわかれば経度がわかる、という説。これはたとえば、ロンドンならロンドンで正

午（ロンドンで太陽が真上にあるとき）に「12時」と時計を合わせ、西に向かって出航します。何日かの航海のあと、太陽が真上にあるとき時計は「1時」を指しているとします。そうすると、そのとき船の位置は西経15度にあるとわかるわけです。地球儀にも表示されているように、経度が15度違うと、時差が1時間になるからです。これは太陽を時計として使い、現地時刻を知る方法です。

この方法は原理的に正しく、後にこの理論を実践した計測法が現実のものになるのですが、持ち運びができ、揺れる船上でも正確に時を刻む時計がなかった当時は、単なる夢物語にすぎませんでした。

それを実現したのは、ジョン・ハリソンというイギリスの元家具職人です。18世紀にハリソンが発明した画期的な時計^④によって、船上での経度測定が世界で初めて成功します。これにより、時計を利用して経度を知る方法が現実のものとなったのです。

そのハリソンは、時計づくりにとりつかれていた、といってもよい人物でした。そして、もと家具職人だけあって、どういいう木が湿度^{しつど}によって伸び縮みしやすいか、どの木とどの木を組み合わせると伸び縮みを相殺^{しょうざい}できるかなど、木の性質に通じていました。その技術が時計の精度を上げることに役立ち、^⑤きわめて精度の高い時計を発明するにいたったのです。

ハリソンは、1728年から5年をかけて製作した「H1」に始まり、1760年に完成させた「H4」にいたるまで、約40年にわたって4世代の時計を製作しました。

最終的には携帯^{けいたい}できるまで小型化が進み、「H4」では懐中時計^{かいちゆう}のような形になりますが、最初の「H1」は帆船^{はんせん}を思わせる不思議な形をしていました。H1は振り子ではなく、バネを用いることでおもりが振動^{しんどう}するメカニズムを採用したもので、バネゆえに、船の揺れとは関係なく時を刻むことができました。バネを用いるという発想は、必ずしもハリソンが最初ではなかったかもしれませんが、据え付け型ではなく携帯型の時計に用いたのはハリソンが世界で初めてです。

こうして船に積んでも狂^{くる}わないマリネクロノメーター（海上時計）が完成し、キャプテンクックの航海で、実際の海上でも精度が保たれることが実証^{じしん}できました。

（安田正美著 『1秒って誰が決めるの？ 日時計から光格子時計まで』より一部改変）

(注1) 概念……ある物事のすべてに共通する本質的な特徴をとらえた考え方のこと。

(注2) 壊血病……ビタミンCの欠乏により、貧血・衰弱・皮ふなどからの出血を起こす病気のこと。

(注3) オースドックス……だれもが伝統的で正統的だと認めているさま。

(注4) 相殺……たがいに差し引きしてゼロにすること。

問一 空らん A には、どのようなことばが入りますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 普遍化 イ 細分化 ウ 簡易化 エ 固定化 オ 抽象化

問二 空らん (1) (3) にはどのようなことばが入りますか。次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

(同じ記号は一回しか使えません。)

- ア では イ ます ウ つまり エ だから オ しかし

問三 空らん B には、どのような文が入りますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海賊からねられやすくなったわけです。

イ 遠洋まで航海できるようになったわけです。

ウ 時計を手放すことができなくなったわけです。

エ 財宝を見つけることができるようになったわけです。

オ 正確な暦を作ることができるようになったわけです。

問四 — 線①「ポルトガルの船はしばしばイギリスの軍艦に襲われました」とありますが、イギリスの軍艦がポルトガルの船を襲った目的は何ですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア たった一隻を襲うだけで、極めて価値の高い財宝が手に入ったから。

イ 象牙や織物、香辛料など、さまざまな珍しい品々を密輸していたから。

ウ 一度でも襲うことに成功すれば、すぐに高い地位を得ることができたから。

エ 商船や捕鯨船が狭い海域に密集し、海賊行為をするには最適だったから。

オ 金銀財宝を積んでいたため、ポルトガル船を海賊と勘違かんちがいしたから。

問五 — 線②「いずれにしても」とは、どのような意味ですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ポルトガルの船が貿易と捕鯨のどちらを行ったとしても。

イ イギリスの軍艦とポルトガルの船のどちらであったとしても。

ウ 航海を安全なものとするために陸地から離れなかったとしても。

エ たとえイギリスの軍艦に襲われる危険性があつたとしても。

オ それほど価値の高い荷物を持ち帰らなかったとしても。

問六 — 線①「長期」②「発布」③「提案」と熟語の組み立てが同じものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 長短 イ 登山 ウ 温室 エ 腹痛 オ 永久 カ 未来

問七 — 線③「全く現実的ではありませんでした」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「現実的」とありますが、その対義語を漢字三字で答えなさい。ただし、本文中の語は使わないこと。

(2) 現実的ではないことを比喩的に表現した一単語を、本文中からぬき出しなさい。

(3) 次の文章は——線③のように考える理由をまとめたものです。空らん(Ⅰ) (Ⅱ) (Ⅲ) に当てはまることばを、それぞれ指定された字数に合わせて本文中からぬき出して答えなさい。

揺れる船上では、(Ⅰ) 二字以内 (Ⅱ) を正確に知ることができないばかりに、(Ⅲ) 二十字以内 (Ⅳ) を精密に観測することができず、(Ⅴ) 二字以内 (Ⅵ) を計算することができないから。

問八 ——線④「ハリソンが発明した画期的な時計」とありますが、どのような点において画期的だったのですか。四十字以内で説明しなさい。

問九 ——線⑤「きわめて」とありますが、どの文節を修飾していますか。次の中からもつともふさわしいもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア 精度の イ 高い ウ 時計を エ 発明するに オ いたったのです

問十 次のア～カの文について、本文から読み取ることができる内容として、合っているものには「○」を、合っていないものには「×」を、それぞれ解答用紙に記入しなさい。(ただし、すべて同じ記号で答えてはなりません。)

- ア 正確な暦を作るためと貿易を成功させるために、時計の精度をあげることが国家的事業となった。
- イ 目的地まで最短距離で航行することができれば、壊血病で船員が死亡する確率をも低くすることができる。
- ウ インドから高価な品々を1秒でも早く持ち帰るため、揺れる船上でも正確に時を刻む時計が必要になった。
- エ 経度さえ割り出すことができれば、それだけで海上における船の位置を簡単に知ることができるようになる。
- オ 太陽を時計として使うことにより経度を割り出すには、地上にある時計が正しいものでなければならぬ。
- カ ハリソンの画期的な発明がきっかけで、時計の精度が高まり、人々の間に「1秒」という概念が定着した。

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

クラス一丸となって優勝をねらっていたドッチボール大会当日、リーダーシップを取っていた矢島くんが欠席した。後日、父親の用事でイギリスに行っていたことがわかり、矢島くんはクラスから反感を買ってしまう。

岩谷くんは、その日から、矢島くんを無視するようになった。

もともと仲はよくなかったが、矢島くんとは、ぜったいに話そうとしない。

だれかとしやべっているときに、矢島くんがそばを通りかかると、Aをつぐみ、いやそうに横を向いてしまう。

矢島くんは、なにもなかったように、ほかのみんなへ話しかけてきた。

たいていの人は、面と向かって無視することもできず、岩谷くんに気をつかいながら、①さしさわりのない返事をした。心の中では、まだおこつていて、岩谷くんのほうが正しいと思っていた。

休み時間になると、岩谷くんは男子をさそい、外へ遊びに出る。

矢島くんは取りのこされ、あてもなく、ひとりですごす時間がふえていった。

いままでいばっていた矢島くんが、こんなふうになるといのは、クラスメートにしてみれば、気味がいいような、かわいそうなような、おかしな気持ちだった。

無視するのも、されるのも、ちよつとのちがいでそうなってしまう。

だとしたら、いつまた変わって、自分の身にふりかかってくるかわからない。

だれもがそう思っているらしく、②よけいな口出しはしないで、できるだけ、かかわらないように気をつけていた。

金曜日には調理実習があり、クラスのみんなは調理室へ移動した。

サンドイッチをつくって食べ、教室へもどつてくると、とぼけた口ぶりで森くんがいった。

「あれーっ、おかしいな。日直の名前が変わってるぞ。」

「ほんとだ。あんなやつ、うちのクラスにいたっけ？」

そばに立つ岩谷くんも声を上げ、わざとらしく教室を見まわした。

黒板のすみには、ふだんから、日直ふたりの名前がチョークで書いてある。

そのうち、女子の名前だけはあがあるが、横にあった矢島くんの名前は消されていた。

名前の代わりにウンチマークが書かれ、ごていねいなことに、まわりを飛ぶハエの絵までつけくわえてある。

席に着こうとしていた矢島くんは、すごい目つきでふたりをにらんだ。

先にすわっていた葉月は、ヒヤツとして、^③かたずをのんだ。

岩谷くん以外の人で、はつきりと矢島くんにいやがらせをしたのは、これがはじめてだった。よりによって、それが森くんだったことに、ほかのみんなもショックを受けたようだった。

森くんは、ついこのあいだまで矢島くんにくつつき、使い走りのような役目を引き受けていた。そのときの不満もあったのか、このところの、クラスの風向きを見て取り、態度を変えたいらしい。

みんなは不安な表情をうかべ、なりゆきを見守った。

教室の空気ははりつめて、B ^④するような緊張きんちやうがつたわってきた。

矢島くんはこぶしをにぎり、しばらく、ふたりをにらみつづけていたが、やがて目をふせ、いすにすわった。それから、気持ちをなだめるように、一つ深呼吸をする。

森くんは、半分ホツとしたように、岩谷くんと目を見かわした。

ふたりとも、声に出さないで笑い、得意そうにガッツポーズを取る。

葉月は、いやな予感におびえ、その日はずっと落ち着かなかった。

翌日の朝になると、エノキの池で水かえをしながら、中井くんにいつてみた。

「だいじょうぶかなあ、矢島くん。このままじゃ、もつとひどいことされちゃうよ。だれか、先生に知らせたほうがいいよ。」

「……そうだけど、だれかって、だれ？ そんなやつ、クラスにいるのかな。」

中井くんはふきげんに、葉月を見ないで答えた。

「前にもいったけどさ。二組がまとまらないのは、だれか、ひとりのせいじゃないよ。みんな、いじめがあるのを知って、なんでおもしろがるのかな。」

「え？ おもしろがってなんかいないでしょ。心配してるんだよ。」

「そうかなあ。だれかがいじめられるときって、手を出すのはひとりかふたりで、あとは見るだけなんだよね。だけど、その影響が大きくてさ。森くんや岩谷くんだって、クラスの空気がそんなだから、ああいうことができるわけだろ。」

自分も体験しているだけに、中井くんのことばは重かった。

心配しているといいながら、葉月にも、先生に告げる勇氣はない。

「いじめるのは、まわりに見物人がいるからやるんだよ。一対一の関係だと、いじめても意味がないんじゃないのかな。先生だってそうだろ。かつつけて、みんなの味方になりたがるから、だれの味方にもなれないんだよ。」

中井くんはそういうと、作業を終えて別れるまで、あとは口をきかなかった。

★

絵画教室の吉岡先生からは、展覧会の案内がきていた。

会場の市民ギャラリーは、塾がある私鉄の駅からも近い。日曜日の午後、模擬テストを受けたあとで、葉月は、そのまま見に行くことにした。

市民ギャラリーの建物は、線路から少しはずれた、高台のふもとにあった。

エレベーターで三階へ上がり、展示室へはいつていくと、教室の生徒や親が十数人ほどきていて、おもいおもいに作品をながめている。

「あつ。きてくれたのね、今村さん。」

すぐに気づいた先生は、声をかけ、歓迎してくれた。

展示室は、学校の教室を、二つ合わせたほどの広さがあった。壁面だけではたりなくて、部屋の中にも、展示用のパネルを立ててある。

先生をひとりじめするわけにもいかなないので、葉月は、ひとりで見てまわった。

十年間の代表作を集めてあるだけに、作品の数は多かった。

それをうまく整理して、古いものから順序よく、年代別にはってある。

絵画教室に葉月がいたのは五年間なので、見おぼえのある絵がたくさんあり、作者の顔もうかんでくる。葉月にしても、絵をかくのは好きなので、なつかしい作品を見ているうちに、もっとつづけていればよかったと思った。

壁面の最後のほうには、現在の生徒の作品があった。有名な画家の絵を模写したものの中に、福園さんの作品を見つけ、葉月はおどろいた。

——あれ。いつごろ、教室にはいったんだらう。

題名を読むと、模写した絵は、ポール・セザンヌの〈林檎のバスケット〉だと書いてある。構図はわりあい単純で、長方形のテーブルの上にかごにはいったリングと、ワインのびんや白布はくふがのつていた。

そばへきた先生は、葉月といっしょに、絵をながめながらいった。

「ああ、そうか。福園さんとは同級生なんだよね。模写をやるっていったら、画集をひろげて、この絵は自分でえらんだんだよ。二か月以上かけてしあげただけで、よくかけてるでしょう。」

「はい。そう思います。」

「セザンヌは、リングをかいて、美術界に革命を起こしたんだけどね。どうしてか、わかる？ この絵をよく見て、考えてごらん。」
いわれて、葉月が首をかしげると、先生はすぐに説明してくれた。

絵の中にあるテーブルは、まん中あたりに、白布がかかっていた。

テーブルのふちは微妙びみょうにゆがみ、本来なら、まっすぐつながっているはずの線が、布の右と左では、くいちがっている。

よく見ると、かごもかたむき、リングがこぼれそうだった。べつに、まちがえたわけではなく、セザンヌは、意識してそうかいたのだという。

「この当時の批評家も、わけがわからなかったらしく、へたくそな絵だっていって、ばかにしたみたいよ。セザンヌは目が悪いっていう人もいてね。」

「わたしにもわかりません。どうしてですか。」

「つまり、Cを変えてるのね。テーブルは横から見てるけど、かごは上から見てかいてるでしょ。テーブルの右と左も、見ている角度がちがうわけ。」

何人かの人が、立ったりすわったりして絵をかいて、それを一つに合わせたら、こんなふうになるんじゃないかな。」

「……………」

「学校のクラスでも、三十人の子どもがいれば、三十人分の見かたがあるでしょ。その中の、どれかひとつが正解だなんて、だれにもいえないじゃない。

セザンヌはそういうことをいいたくて、かいてあるのはリンゴだけど、リンゴをかいたわけじゃないの。見えないけど、たしかに感じていることを、目に見えるようにするのが画家の仕事なんだよね。」

(☆)

⑧ 先生のいうことはむずかしく、すぐには理解できなかった。

わからないまま心のこり、葉月は、もっと考えてみようと思った。

展示室では四十分ほどすごし、帰ろうとして、外のロビーへ出た。

すると、エレベーターのドアがひらき、中から福園さんがおりてきた。やはり塾の帰りらしく、紺色のバッグをさげている。

「あーっ、きてたの。今村さんの絵もあるから、会えるといいなって思ってた。」

福園さんはよろこんで、あたりまえのように腕を組んできた。

葉月は少しおどろいたが、そのまま会場へもどった。

「いいよね、今村さんの自画像。色とか、筆づかいいいけどさ。自分のこと、ちゃんとわかってかいてるような気がする。」

「うそ。福園さんの絵のほうがいいよ。しあげるの、たいへんだったでしょう。」

「そうだよ。先生はやさしいけど、絵のことになるとうるさいもんね。セザンヌは、どうしてこれをかいたのか考えろって、なんともいわれたよ。」

「ああ。わたしもさつき、きかれた。」

ふたりで笑い、会場のすみにある、休憩場所のいすにすわる。

「福園さんは、なんで教室にはいったの。受験があるから、親に反対されなかった?」

「ううん、うちはぎゃくだよ。はいったのは去年の九月からだけどね。受験勉強ばかりだと、かたよった人間になるからって、お母さんにいわれてさ。」

「へえー、そうなんだ。だったら、受験も自分で決めたわけ？」

「べつに、地元の中学でもいいんだけどさ。なんとなく、電車通学にあこがれて、この町とはちがう場所へ行ってみたいんだよ。そういう気持ちって、ない？」

それは、葉月にもよくわかった。

そんな理由で決めるのは、いかにも福園さんらしく、思ったことをすぐに行動に移せる身軽さも、うらやましかった。

「うちのお母さんは、看護師をしてるんだけどさ。女も一生、つづけられる仕事を持って、わたしにもうるさくいうんだよ。そのためには、子どものうちから、なんでもやってみろって。」

「すごいねえ。うちじゃ、考えられないよ。」

「勤めてるのは県立の医療センター^{いりょう}だけど、看護師は夜勤があるし、交代制だから、かってに休めないしね。お母さんを見ると、ほんと、よく働くよ。だから、わたしもがんばらなきゃって思う。」

福園さんは、なにか思いついたらしく、少し、間をおいてからいった。

「そういえば、知ってた？ 医療センターに森くんのお父さんが入院してて、けっこう長くいるみたい。なんの病気か知らないけど、手術のときは、森くんもきて、わんわん泣いてたんだって。お母さんは看病にかよってるから、家にいる子どもも、たいへんなんじゃないかな。」

「ほんと!? ……はじめて聞いた。」

「森くんは、教室にいてもあれてるけど、このごろは、駅前ゲーセンにも行ってるみたいだよ。塾へ行くとちゅうで、はいつていくのを見たもの。」

森くんの家は近所なので、葉月は、小さいころから知っていた。

森くんは長男で、下に弟と妹がいる。両親が家にいなくて、子どもだけのるす番がつづけば、三人とも、^⑨どれだけ不安になるかは想像がつく。ひょうきんにふるまう一方で、森くんが急に乱暴になったのは、そういうことも、原因になっているのかもしれない。

問一 空らん **A**にはどのようなことばが入りますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目 イ 肩 ウ 腰こし エ 口 オ 耳

問二 — 線①「さしさわりのない返事をした」とありますが、このように行動したのはなぜですか。「岩谷くん」「矢島くん」という二語を使って説明しなさい。

問三 — 線②「よけいな口出しはしない」とありますが、葉月が矢島くんに対するいじめに口出しをしないことがわかる部分を、これより後の本文中から十一字でぬき出しなさい。

問四 — 線③「かたずをのんだ」とはどのような意味ですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不安を感じて身を固くすること
イ おどろきのあまり言葉が出ないこと
ウ 気持ちを落ち着けようとすること
エ 気づかれないように気配を消すこと
オ 緊張して様子をうかがうこと

問五 空らん **B**にはどのようなことばが入りますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ハラハラ イ ジリジリ ウ キリキリ エ ピリピリ オ カリカリ

問六 — 線④「半分ホツとしたように」とありますが、この時の森くんの気持ちを説明した文として、もっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 矢島くんが自分と岩谷くんはんげきに反撃をしてこなかったで、今のところ安心している。
- イ 自分は矢島くんにきらわれていないことが今さらになって分かり、緊張がとけている。
- ウ みんなの矢島くんに対する不満をぶつけることができたつもりになって、満足している。
- エ 自分が悪いことをしていないとクラスみんなから認められたので、得意になっている。
- オ みんなが矢島くんのことを表立って責めなかったので、いらだちをかくしきれないでいる。

問七 — 線⑤「葉月を見ないで答えた」とありますが、この時の中井くんの気持ちを説明した文として、もっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分もクラスのいじめを止められるわけではないのに、葉月にえらそうに言っていることが気まずいと感じている。
- イ 矢島くんを心配している葉月に対して、自分が何をしても状況じょうきょうを変えることができないのだとあきらめを感じている。
- ウ 自分はいじめに口出しをしたくないと思っっているにもかかわらず、行動を起こそうとする葉月を迷惑めいわくに感じている。
- エ クラスのみんながいじめを見ているだけの状況を見て、次は自分の番になるのではないかと不安を感じている。
- オ いじめに不安を感じている葉月を元気づけてあげることができないので、顔向けなどできないと感じている。

問八 — 線⑥「クラスの空気」とありますが、中井くんが考えるクラスの様子を具体的に説明した文として、もっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア だれもが矢島くんへの態度を変えた森くんに不満を抱き、森くんともかかわらないように無視しようとしている様子。
- イ だれもが矢島くんをいじめる岩谷くんや森くんによけいな口出しをせず、ただなりゆきを見守ることしかしない様子。
- ウ だれもが心の中では岩谷くんのほうが正しいと思い、かかわらないようにしながら内心では岩谷くんを後おしている様子。
- エ だれもが心配だと言いながらいじめをおもしろがっていて、もっとひどくなることを望まずにはいられない様子。
- オ だれもが岩谷くんにいじめをやめるよう言えないまま、もっとひどいことが起こるのではないかと心配している様子。

問九 — 線⑦「おもいおもいに」とはどのような意味か。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 思い出にひたりながら
- イ われ先にと人をおしのけて
- ウ あれこれと考え込みながら
- エ じっくりと時間をかけて
- オ それぞれ思うに任せて

問十 空らん C にはどのようなことばが入りますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 顔の向き
- イ 書く道具
- ウ 目の位置
- エ 見る時間
- オ 手の動き

問十一 — 線⑧「先生のいうこと」とありますが、セザンヌが〈林檎のバスケット〉により何を伝えようとしていたと先生は考えているのですか。三十字以内で答えなさい。

問十二 ——線⑨「三人とも、どれだけ不安になるか」とありますが、どのようなことに対して不安であったと考えられますか。具体的に五十字以内で説明しなさい。

問十三 本文中に登場する人物のうち、「中井くん」「福園さん」について説明した文として、もっともふさわしいものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 誰に対しても友好的だが、自分のペースに無理にでもまきこもうとする。
- イ 周囲の意見にとらわれず物事を自分で判断し、すぐ実行することができる。
- ウ いじめが起きるたびに、周りの状況を見てまきこまれないようにしている。
- エ いじめを体験したことがあり、周囲の様子を一步引いた視点から冷静に見ている。
- オ 周囲の忠告に耳を貸すことをせず、ひたすら自分の意志をつらぬき通そうとする。
- カ いじめを止められなかった経験があり、いじめられている人を助けようとしている。

問十四 次の文章は、本文中の主人公についてまとめたものです。空らん（Ⅰ）・（Ⅱ）に当てはまることばを本文中からぬき出して答えなさい。ただし、（Ⅱ）は本文中の（★）と（☆）のあいだから一文でぬき出すこと。

この文章の主人公は、（Ⅰ）葉月という名前である。本文中に（Ⅱ）と書かれていることから、葉月は他人を気づかうことのできる性格だと考えられる。

〔三〕

次の――線部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ改めなさい。

- ① 国の安全をホシヨウする。
- ② 物品のタイシヤク表を作る。
- ③ ダンリュウに乗って魚がやってくる。
- ④ ケーキをキントウに切り分ける。
- ⑤ 母が弟のためにセーターをアむ。
- ⑥ この学校は海外に門戸を開いた。
- ⑦ 私は一期一会を大切にしている。

